

子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク



人と人をつなぐ保養プログラム！

ガラスバッチ 積算予測

月	空間線量平均	ガラスバッチ
3月	7.13 μ Sv/h	1.125mSv/m
4月	1.9 μ Sv/h	0.3mSv/m
5月	1.5 μ Sv/h	0.25mSv/m
6月	1.4 μ Sv/h	0.25mSv/m
7月	1.4 μ Sv/h	0.25mSv/m
8月	1.4 μ Sv/h	0.25mSv/m
9月	1.3 μ Sv/h	0.2mSv/m
10月	1.3 μ Sv/h	0.2mSv/m
11月	1.2 μ Sv/h	0.1mSv/m
12月	1.2 μ Sv/h	0.1mSv/m
1月	1.2 μ Sv/h	0.1mSv/m
2月	1.2 μ Sv/h	0.1mSv/m
平均/年	1.84 μ Sv/h	3.225mSv/y

※空間線量平均は概算値です

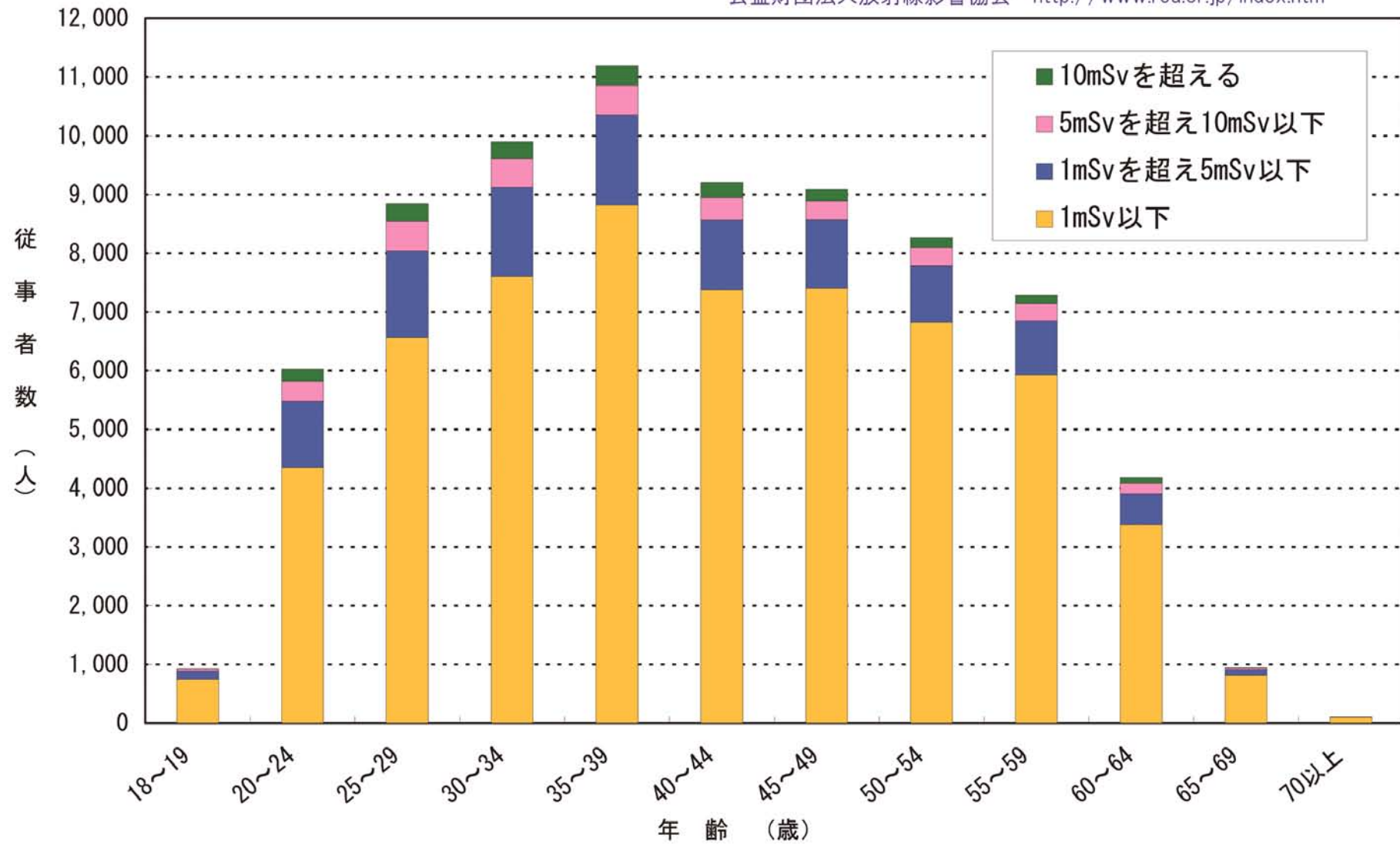
※ガラスバッチ積算値は9月～11月の結果を元にした推定です

個人用報告書 個人用報告書 個人用報告書

ご使用者名		殿		殿		殿	
個人コード							
集計開始年月日		2011年10月01日		2011年10月01日		2011年09月01日	
集計終了年月日		2011年11月30日		2011年11月30日		2011年11月30日	
算定日		2011年12月15日		2011年12月15日		2011年12月15日	
項目名	使用期間	mSv	×件数	四半期計	mSv	×件数	年度計
実効線量	50mSv/年	0.3		50mSv/年	0.3	0	50mSv/年
等価線量	水晶体	150mSv/年	0.3	150mSv/年	0.3	0	150mSv/年
	皮膚	500mSv/年	0.0	500mSv/年	0.0	0	500mSv/年
	手足指端	200mSv/年	0.0	200mSv/年	0.0	0	200mSv/年
測定方法	放射線測定器使用		放射線測定器使用		放射線測定器使用		
胸	モニター名	ガラスバッチMS型		ガラスバッチMS型		ガラスバッチMS型	
	測定日	11年12月14日					
	モニター名	H1cm Hx0um		H1cm Hx0um		H1cm Hx0um	
	測定日						
	モニター名	H1cm Hx0um		H1cm Hx0um		H1cm Hx0um	
	測定日						
	モニター名	H1cm Hx0um		H1cm Hx0um		H1cm Hx0um	
	測定日						
	モニター名	H1cm Hx0um		H1cm Hx0um		H1cm Hx0um	
	測定日						
実効線量5年間の累積値	2011年	0.5	0	0.5	0	0.5	0
	2012年						
	2013年						
	2014年						
	2015年						
個人線量の算出方法	個人コード単位		個人コード単位		個人コード単位		
調整・備考							
確認印							
測定機関名	株式会社千代田テクノル		株式会社千代田テクノル		株式会社千代田テクノル		
登録コード							
グループ名							
作成日	2011年12月15日		2011年12月15日		2011年12月15日		
受付管理番号							

2. 放射線業務従事者の年齢別線量 [平成21年度]

公益財団法人放射線影響協会 <http://www.rea.or.jp/index.htm>



【汚染状況重点調査地域指定市町村の除染実施状況】

※平成24年5月末現在。計画は24年度年間計画に23年度実績を加えたもの。空欄の場合は未定も含む。全項目が未回答の小野、矢祭、塙、会津坂下、柳津、三島、昭和、会津美里の8町村を除く。

市町村名	住宅〈戸〉			公共施設等 〈施設〉			道路〈キロ〉			水田〈㌧〉			畑地〈㌧〉			樹園地〈㌧〉			牧草地〈㌧〉			森林〈生活圏〉 〈㌧〉		
	計画	発注	実績	計画	発注	実績	計画	発注	実績	計画	発注	実績	計画	発注	実績	計画	発注	実績	計画	発注	実績	計画	発注	実績
福島市	22,714	3,766	718	381	243	126	634.0	55.0	25.0	2,397	832	832	1,184			2,358	2,000	2,000						
二本松市	2,350	143	25	73	58	34	90.0	32.0		2,200	1,800	1,800	1,000			69	69	69	506			138		9
伊達市	14,028	2,523	37	163	58	13	384.0	150.2		1,300	1,080	1,080	1	1	1	1,335	1,335	1,300	18	8	8	10		1
本宮市		2	2							1,804	20	18				12	12	12	40	40				
桑折町	1,800			67	20	19	177.0			520	520	520				380	380	364						
国見町					2	2				450	450	430				365	365	365	21			22		
川俣町	5,105			7			1,073.0									5	5	5						
大玉村	500	367	32	38	24	24	14.0			98	98	98				8	8	8						
郡山市	25,000	1	1	652	332	215	770.5			560	6	6	1	1	1	67	38	38	180					
須賀川市	2,800			32	4	2	30.0			130	130	73				135	135	135						
田村市					31	31				5	5													
鏡石町	308	3	3	40			30.0									36	36	36						
天栄村	161			10	1		33.0	1.0																
石川町																35	35	35						
玉川村	5			8	8	8																		
平田村	500			17			92.0																	
浅川町				4	3	3																		
古殿町				9	5	5																		
三春町					12								103	2		17	10	10	16	16	16			
白河市	1,691			171	65	65	110.0			900	900	900				26	26	26	36	36		71		
西郷村	6,900			200	17	8	500.0	25.0	25.0	25	25	25	36	36					250					
泉崎村	1,000			7			20.0																	
中島村	257			4																				
矢吹町	150			22	1	1	13.0			132	132	132												
棚倉町	30			2			14.0																	
鮫川村	23																					15	15	15
湯川村	600	450	450	37	4	4	42.8	5.0	5.0															
新地町				9	3	3											35	35						
相馬市	565	15	15	17	2	2		12.6	12.6							44	44							
南相馬市	337	17	17		130	124	81.0	28.0	28.0		1	1				18	18							
広野町	1,850	1,850	519	56	56	12	73.9	73.9	3.0	300			10											
川内村		961	238		6	5				500			400						150			245	住宅に含む	145
いわき市		12	5		51	51																		
合計	88,674	10,110	2,062	2,026	1,136	757	4,182.2	382.7	98.6	11,321	5,999	5,915	2,735	40	24	4,848	4,551	4,500	1,217	100	24	501	25	169
市町村数	23	13	13	24	24	22	19	9	6	15	14	13	8	4	2	14	17	17	9	4	2	6	3	3

7

福島 園児の体重増加
去年の4分の1程度に

1年間の平均体重変化

(福島 郡山 4・5歳児クラス 245人)

去年(～6月)

ことし(～6月)



3.1kg増



0.81kg増



01:58 / 03:02



7

福島：園児の体重増加
去年の4分の1程度に

1年間の平均体重変化

ことし 5歳児クラス

全国発育調査の
平均1.8kgを
下回る



0.84kg増



02:18 / 03:02



ジュニア陸上教室に参加し体を動かす児童



屋内で体動かし笑顔

福島のジュニア陸上教室

東京電力福島第一原発事故により屋外で思いきり遊べない子供がいる中、福島市スポーツ振興公社が屋内で実施している「ジュニア陸上教室」が人気を集めている。子供たちは「走る」「跳ぶ」などの基本的な運動を通し、体を動かす楽しさを味わっている。

教室は市内の信夫ヶ丘競技場の屋内練習場を使用する。昨年七月にスタートし、ほぼ毎月実施している。週一回の全六回コースで、常に定員を超える申し込みがあるという。

二十二日に始まった十二回目の教室には、市内の小学一～四年生約三十人が参加した。

市陸上競技協会の菊田明博さんが講師を務め、ラダーと呼ばれるはしご状のトレーニング器具を使い、さまざまなジャンプやステップ、ダッシュなどを教えた。児童は笑顔を見せながら、元気に体を動かしていた。

菊田さんは「運動はストレス発散につなが

る。教室を通して心身共に健康になってもいい」と話している。

来月18日から電話受け付け

次回教室

次回の教室は七月三日からの「火曜日コース」と同四日からの「水曜日コース」。全八回で定員は各二十人。参加費は二千元(傷害保険加入料含む)。六月十八日から電話で申し込みを受け付ける。問い合わせは、同公社信夫ヶ丘競技場 電話024(5333)267へ。

毎回定員超の人気

2012年(平成24年)5月25日(金曜日)

来月から常設に

福島市保健福祉センター「おもちゃ広場」

福島市は毎週土曜日に同市森合の市保健福祉センターに設けていた室内遊び場「おもちゃ広場」を六月から常設する。

市は放射線に対する不安から屋外での遊びを控える児童、幼児のためにセンター五階の大会議室を「おもちゃ広場」として、これまで毎週土曜日のみ開放していた。

好評だったことやボランティアらの協力で、常設することとした。常設に伴い、場所は五階大議室から六階展望ロビーに移る。ま

まごとセットからボールプールなど大型遊具を設置している。

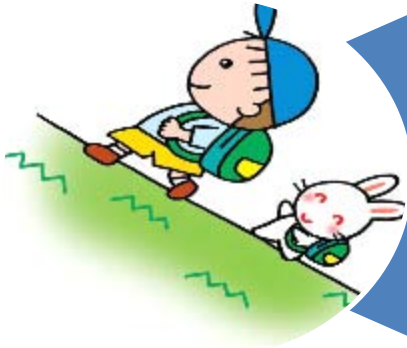
年会費百円で利用でき、運営は月曜日から土曜日の午前十時から午後三時まで。

多くの子どもでにぎわう「おもちゃ広場」





自然と触れ合う



体力の向上



精神的安らぎ





保養プログラムの実践

① 広 報

② 情報伝達

全国の市民団体の皆様

③ 週末保養

④ 長期休暇保養

① 広報 全国の皆さんに福島の現状を



② 情報伝達

保 養
情 報
収 集

企 画
内 容
相 談

情 報
集 約
公 開

データベース化 ～ 保養以外の情報発信 ～ 一元化

ほよ～ん相談会

③ 週末保養

近隣地域への1泊2日短期保養プログラム

★山形県河北町へ(町主催イベントに参加)

町、議会、教育委員会、社会福祉協議会、
町民の皆様のご理解 & ご協力

★山形県川西町へ(廃校利用施設の利活用)

町、地元NPOの皆様のご理解 & ご協力

★他団体との連携により、保養の共催化

アースデイ東京、中野アクション、他多数

写真をご覧ください

④ 長期休暇での保養

夏休み等、長期間を活用したプログラム

① 検診との組み合わせ

（尿・ホールボディカウンターの継続検査）

② 放射能リテラシーワークショップ

（JIM-net の協力による実施）

③ 子どもの権利に関するワークショップ

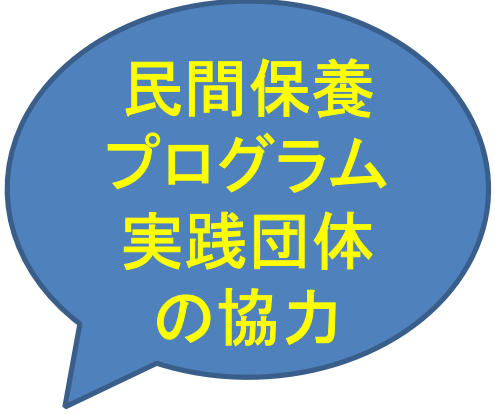
（**SAVE THE CHILDREN JAPAN** の協力）

④ 他団体との連携による長期保養の実現

（受け入れ団体やボランティアさんのご協力）

⑤ 学期期間中の教育プログラム クラス単位での『移動教室』

- 担任が同行し、級友同士で行う安心感
- 通常カリキュラムをそのまま学習
- 思う存分の自然体験を織り込む
- 空き教室や地域資源を活用
- 自立心や社会性を育てる機会
- 安全な食事・規則正しい生活で免疫力アップ
- ◆ 児童同士の交流～地域住民との交流
- ◆ 受け入れ側児童・教師にとっても学びの機会
(防災意識・まちづくりや新しい公共の観点)



民間保養
プログラム
実践団体
の協力

◆ これからの展開 ◆

① 311受け入れ全国協議会

一時的な疎開や避難、保養を受け入れて下さっている全国の市民活動団体との連携～協働

② 原発事故子ども被災者支援法 市民会議

弁護士さんや支援団体さん、被災者さんと共に個別法の制定に向けて議論～法制化を実現

③ 民主党WTや野党超党派議連との意見交換

復興予算を被災民へ！在住児童へ！

④ ふくしま会議 県内外の市民が意見交換する場

原発事故 子ども被災者支援法

◎ 市 民 会 議 ◎

1. 支援対象地域・範囲を考える班
2. 検診や医療について考える班
3. 在住者支援について考える班
4. 避難者支援について考える班
5. 広報(情報発信)班

市民会議からの声

「支援対象地域(§8)」の設定は年間1mSVを基準に

基本方針, 個別施策実施に当事者の声を

早期の予算確保で着実な支援を



2012.10.19.院内集会【参議院議員会館】
伊達市教育委員会・被災者・支援団体

求められる個別施策の充実

検討中
未定稿

支援対象	個別施策(例示)	条文根拠	予算(想定)	補足
全体	医療費減免	§13Ⅲ	TBD	❑ 厚労省(環境省)に試算あるはず
	子どもの生涯健康診断	§13Ⅱ	TBD	❑ 厚労省(環境省)に試算あるはず
居住	学校給食の安全確保	§8ⅠⅢⅣ	TBD	❑ 福島県が一部先行実施
	自然体験活動等の保養	§8Ⅰ	TBD	❑ 民間団体が豊富な受け入れ実施
	子どもの屋内運動等支援	§8Ⅱ	TBD	❑ 郡山市内に大規模施設オープン
一部避難	家族の移動交通費支援	§8Ⅰ・§9	TBD	❑ 高速無料化の際に試算あるはず
	家族と離れた子ども支援	§8Ⅰ・§9	TBD	❑ 新潟県は独自実施中
避難 (帰還)	避難先住居の確保	§9	TBD	❑ 現在は災害救助法で手当て
	避難交通費の支援	§8	TBD	❑ 現在は災害救助法で手当て
	避難先での就労支援	§9	TBD	❑ 現在はほぼ対応なし
	避難先での学習支援	§9	TBD	❑ 現在はほぼ対応なし
	広域避難者支援の枠組みづくり	§9	26億円?	❑ JCNより具体的提案あり(次頁以降)

想定されるタイムスケジュールとToDo

7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月

外部
環境

年度末で
受け入れ支援
打ち切りの危険

基本方針策定への当事者・支援者の関与を求めていく

基本
方針
策定

基本方針策定？

個別
施策
実施

どんどん前倒しで個別施策実施を求めていく

個別施策
実施？

予算項目として入れ込むよう求めていく

予算
確保

概算要
求

来年度予算確定

補正予算？

福島セルフケア・レポート

NPO 法人ライフケア 橋本俊彦

昨年5月から、福島市、郡山市、二本松市、飯舘村など福島県内11市町村を訪問し、セルフ・ケア講座と健康相談会を重ねてきた。原発事故後の過酷な状況において、とにかく現場に足を運ばなければ問題の解決策は見いだせない、と考えてのことだった。私たちが活用しているライフエネルギーテストでは、昨年6月の時点ですでに甲状腺、泌尿器系をはじめ各臓器にマイナス反応が出始めており、この傾向は現在も継続している。当然ながら、内部被曝の影響は否定できない。

福島県内の講座や相談体制を充実させるために、今年9月、「NPO 法人ライフケア」を立ち上げた。現在、県内7カ所において、健康相談会及び放射線対策講座を定期的に行なっている。「排泄と修復」をキーワードに、放射性物質を入れない、入った物は出す、そして免疫力を高める、この3点を対策の柱に据えて、操体法、内臓の手当て法、未精白の穀物と野菜、発酵食品をよく噛んで食べること、排泄力を高める薬草茶スギナ、ヨモギ、ドクダミ、ケツメイシ、黒煎り玄米などの摂取を勧めている。薬草はライフエネルギーテストで調べ、その人に合っているものを摂取できるようにしている。

これまでの福島県立医大による健康調査・甲状腺検査に対して保護者はもちろん、住民の医療不信は高まるばかりである。世界各地の医療水準を見渡しても、たぶん福島は医療の最貧エリアの1つに数えられるだろう。原発事故を受けて、被曝の現実を受け止め、身体を守っていくために医療はなにができるのか。残念ながら現時点で、近代西洋医学に具体的な予防策は見当たらない。一方、自然医学では食養生、漢方、鍼灸など、これまでの経験則に根ざした取り組みが、真に試される時期にきている。自らの手に医療を取りもどす行為とは、生活のなかで健康に生きていくための智慧を実践すること以外、道はありえないと考える。それを共に考え、提案できるかどうか、それが医療に求められている。

NPO 法人ライフケア

〒963-7741

福島県田村郡三春町八島台 6-8-4

☎0247-62-2126

mail: shizen.igaku.info@gmail.com

<http://shizen-igaku.org/>

主な事業

- ・ 健康相談会
- ・ 放射線対策講座
- ・ 仮設住宅訪問
- ・ 保養企画

人と人がつながる農業再生への道



福島県二本松市
あぶくま高原 遊雲の里ファーム
菅野 瑞穂

1、自己紹介

- 菅野 瑞穂(すげの みずほ) 24歳
- 福島県二本松市(旧東和町)在住。
- 日本女子体育大学卒業(大学時代はセパタクローに打ち込む)
- あぶくま高原 遊雲の里ファーム 就農3年目
- 主に水稻、夏はトマト、秋は高原大根、冬場はもち加工

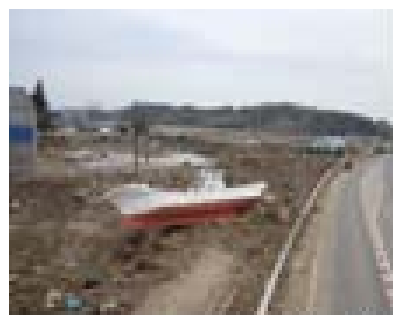


2、農業へ道

- ・農産物などのPRや地域の魅力をもっと発信していきたい！
 - ・自分で作った米や野菜を提供する農家レストランを開業し、人が集まる空間をつくる！
- そのためには、まず農産物を生産する立場になって今の現状を自分が体験して確かめよう。

……そう決意してから1年後。





3.11～「わたしにできること」

- 震災直後からブログで状況をつづる
- 3/15 わが地域でも原発避難者受け入れ(支援物資、食糧等届ける)
- 3月下旬東京～佐渡島 自主避難10日間今後のことを考える
- 4/8 相馬、南相馬へ支援物資
- 4/12 二本松市の米の作付認める→種をまこう！！
- 6/4 福島農業再生ひまわりプロジェクト！！
- 県内から20名近い人が集まりひまわり、さつまいもを植えました。



3、震災、原発事故後の取り組み

- 2011年6月 ひまわりの種まきイベント

(県内から20名参加。ひまわり5000本、さつまいも500本)植える。)

- 2011年8月 夏の収穫祭

(県外から15名参加。野菜収穫や流しそうめん、BBQ交流会)

・・・今までで計9回企画、実施。150名近い人たちが参加。

<内容>

- 放射能汚染実態調査→田んぼや農場を視察、汚染マップ、ガイガーカウンター、農産物測定器、ストレートベジタブルオイルを使用したトラクター、搾油機、地域の人々の声を聴く。
- 南相馬市小高区原発から11キロ地点の視察等



2012 夏・秋のイベント風景





浪江町の避難者と稲刈りイベント 2012. 10. 10



放射能汚染実態の取り組み



参加者の声・・・

- 「もっと福島現状を多くの人に知ってほしい」
- 「福島で出会った一人一人は明るく元気に様々なことを工夫しながら、自分たちの取り組んでいることに対して誇りをもってされている姿に感動しました」
- 「米を作るまでゼオライトを入れたり、土をひっくり返したり、大変なことだと思いました。でも東和のみなさんは待っていない、やれることをやっているー」
- 「原発事故が起きて話を聞いて深刻な部分もあると感じたが、みんな前向きで明るくて、遠く離れた東京の人たちの方が不安がっていることが多いなと思いました。」



4、震災後の福島の実態

- 福島県の避難地域の作付制限**1万ha**→**100万人分**のお米
- 福島県全体だと**5万ha**の耕作放棄地→日本全体の2%
＜今年の米の生産量＞**4位から7位**に！！
- 福島県震災前→年間約**45万トン**
震災後→約**36万トン**見込み

平成23年度水稻・陸稲 米の収穫量上位10件

資料：農林水産省「平成23年産水
陸稲の収穫量」

※なお、一番少ないのは東京都の
714トンです。

1	北海道	634,500
2	新潟県	631,600
3	秋田県	512,100
4	茨城県	396,900
5	山形県	392,200
6	宮城県	363,200
7	福島県	353,600
8	栃木県	351,400
9	千葉県	322,000
10	岩手県	297,600



5、今後の取り組み

農地、コミュニティの再生

(震災後、福島県全体で約5万ha(500万人分のお米)不耕起地帯。県外へ4万5千人流出)

- 福島の農業の実態を現場で学び体験する機会を作り実態を風化させない！



『人と人が集まる場づくり 農地再生のモデルづくり』

福島のために何かしたい！

支援したい！現状を知りたい！

・・・そういう人たちへの受皿となる場をつくる。

6、福島農業再生のために

ステップ1 (～3年)

○グリーンツーリズム事業

農業体験を通して消費者の理解を深めると共に、顔の見えるつながりを増やしていく。



ステップ2 (～5年)

○地域コミュニティ事業

農家レストラン(カフェ)を開き人が集まり地産地消できる場所を提供する。



ステップ3 (～10年)

○農地再生事業

田畑のオーナー制度や農地利用を拡大し、耕作放棄地を耕す！ 農産物加工や農業体験塾など学びの場を創る。



7、自分ができることから

自分のできることは小さなことかもしれない・・・
けれど誰かの“笑顔”のために。福島のために。
熱い想いをもった人たちと夢をカタチにしていきたい。

《情報発信》

ブログ「遊雲の里ファーム」で検索
Twitter、face book やってます。
来春までにはHP作る予定です。

《遊雲の里ファームの商品》

棚田米 コシヒカリ自然乾燥
冬季期間のみ 杵つきもちのお歳暮セット
※放射性物質検査済



8、お知らせ

○ TUFルポルタージュ



放送日時 2012年12月3日（月）
午前0時50分～（54分番
組）

制作 テレビユー福島



ご清聴ありがとうございました。



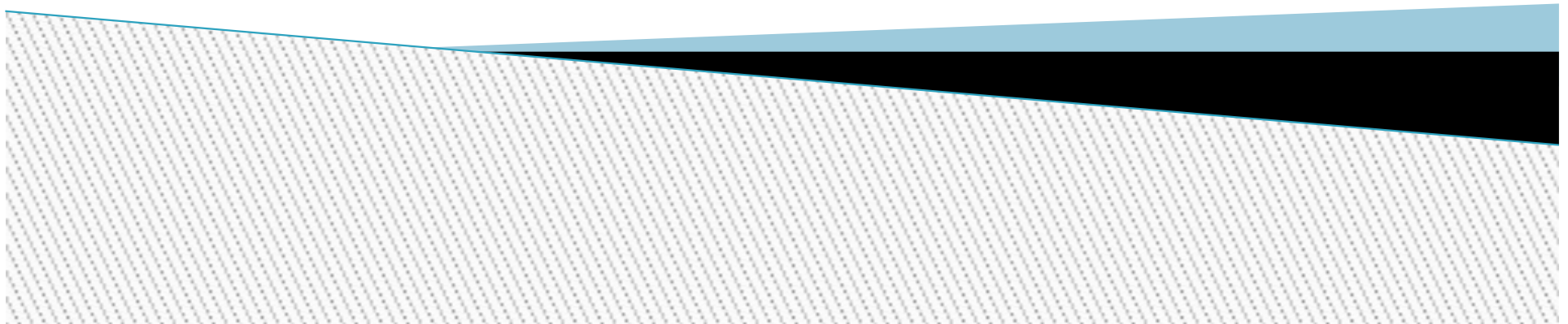
いわき市における支援活動

特定非営利活動法人



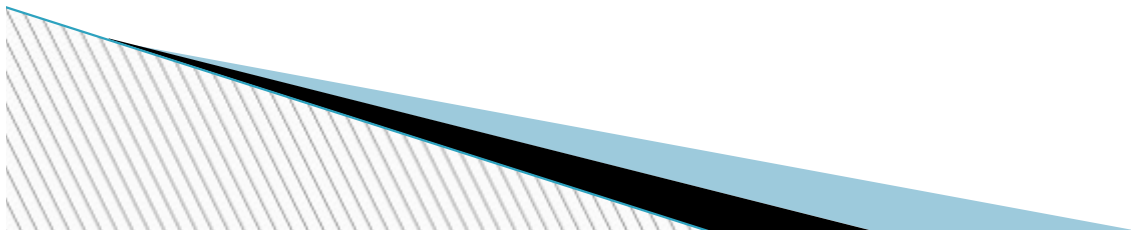
シャプラニール＝市民による海外協力の会

震災対応担当 佐藤 緑



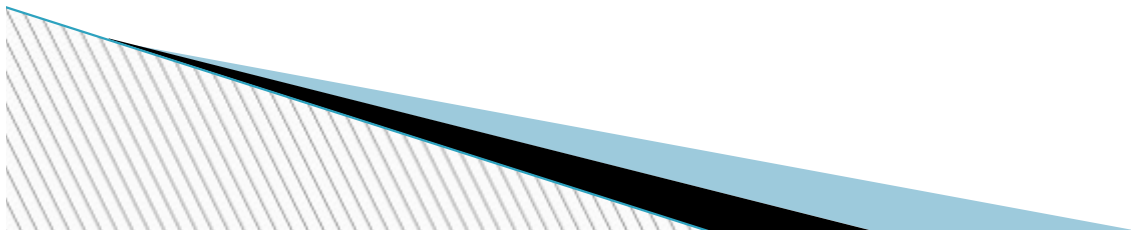
国際協力NGOとしてのシャプラニール

- ▶ ・1972年 南アジアの貧困削減を目的とし発足
- ▶ ・“援助”から“共生”へ
- ▶ ・現地パートナー団体との連携
- ▶ ・40年の活動(バングラデシュ、ネパール)
 - ▶ 児童労働の予防と削減への取り組み
 - ▶ 家事使用人として働く少女支援
 - ▶ サイクロン、洪水の多い地域での防災支援
 - ▶ フェアトレード商品開発、販売
 - ▶ ……当事者主体、働きかけ



国際協力から国内活動へ

- 2011年3月 北茨城→いわき市へ
- “取り残された”状況
- 5月、調理器具配布とニーズの把握
- 10月、交流スペース「ぶらっと」開設
- 12月、ぶらっと通信発行



ぶらっとの様子



毎週金曜の健康運動教室



“男性限定”竹かご作り

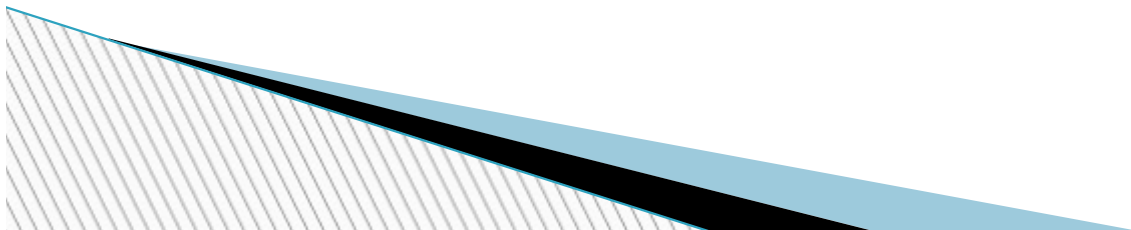
交流スペース「ぶらっと」での変化

- ▶ ◎2011年10月開設

- ▶ → ・とにかく誰かと話せる場所がほしい
- ▶ ・ばらばらになってしまった同じ町の人に会いたい

- ▶ ◎2012年11月現在

- ・自分で何か役に立てることはないか
- ・ぶらっとを知らない人に教えてあげたい
- ・次はこんな教室、イベントをしたい



ボランティアスタッフとともに



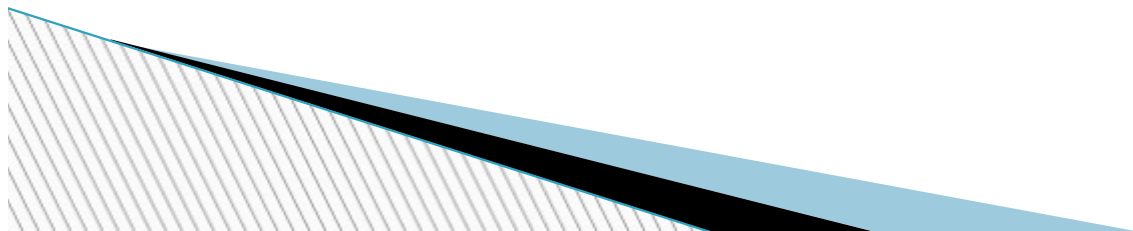
「街なかコンサート」にて初めての販売



ぶらっと通信発送作業

個別対応事例

- ▶ ・被災地の高齢者問題
- ▶ ・次のステップへの不安
- ▶ ・友人、知人とのかかわり方
- ▶ ・住居環境
- ▶ ・外出の課題



ネットワーク

▶復興支援ボランティアセンター連絡会議

- 。第1回は2011年4月22日開催。現在は月1回。メンバーは市、県、社協、NPO など

▶3.11被災者を支援するいわき連絡協議会(みんぷく)

- 。2012年6月17日発足。会員数は33団体。円卓会議の実施、部会の設置



いわき市被害・避難状況

いわき市ウェブサイト(10月3日付)から

死亡者数	430人	
建物被害	90,092棟	全壊7,886、大規模半壊7,251
仮設住宅建設戸数	3,472戸	いわき市民対象189戸
いわき市外への避難者数	7,711人	3,529世帯
一時提供住宅入居者数	8,469人	いわき市民(3,052世帯)
いわき市外からの避難者数	23,681人	うち双葉8町村22,829人

<比較> 仮設住宅・公営住宅・民間借上住宅等への避難者数
(復興庁ウェブサイトから「所在都道府県別の避難者等の数」2012年7月5日現在)

岩手県:42,060人

宮城県:126,704人

福島県:100,096人



被災者の生活支援

▶ 行政

- 地域包括支援センターによる見回り(65歳以上)
- 県保健福祉事務所による見回り、集会の実施
- 心のケアセンターによる見回り

▶ 社会福祉協議会

- 生活支援相談員による見回り(65歳以下)
- 仮設住宅支援
- 交流サロン等の実施

▶ NGO/NPO

- 交流スペース／情報センターの運営
- 仮設住宅支援

